

NEWS RELEASE

前後期に分けて6名の作家を紹介

2021.12.16

「ポーラ ミュージアム アネックス展 2022」

若手アーティストによるグループ展 2月11日(金・祝)より



ポーラ ミュージアム アネックス(東京・中央区銀座)では、「ポーラ ミュージアム アネックス展 2022」を2022年2月11日(金・祝)から4月17日(日)まで、前後期に分けて開催します。

本展では過去に公益財団法人ポーラ美術振興財団での若手芸術家の在外研修に対する助成において、採択されたアーティストの作品を展示します。ポーラ ミュージアム アネックスでの発表をきっかけに、今後の活動に活かしていただきたいという趣旨から開始致しました。今回も昨年に引き続きポーラ美術館 木島俊介館長 監修のもと、「主題・素材を超えて」というタイトルで前後期に分けて、合計6名の作家をご紹介します。

若手芸術家の在外研修に対する助成とは、公益財団法人ポーラ美術振興財団が毎年実施している活動のひとつで35歳以下のアーティストを対象に海外での研修を援助し、日本の芸術分野の専門性を高めていこうとするものです。

|| 展覧会概要 ||

【前期】

会 期：2022年2月11日(金・祝) - 3月13日(日) 【31日間】 *会期中無休

参加アーティスト：松田壯統・杉山夏実・稗田直人

【後期】

会 期：2022年3月18日(金) - 4月17日(日) 【31日間】 *会期中無休

参加アーティスト：菅野創・北條知子・寺嶋孝佳

【前後期共通】

会 場：ポーラ ミュージアム アネックス (〒104-0061 中央区銀座 1-7-7 ポーラ銀座ビル 3階)

主 催：公益財団法人ポーラ美術振興財団

開館時間：11:00 - 19:00 (入場は18:30まで)

入 場 料：無料

左：(後期) 菅野創「Lasermice dyad」2020年 レーザ、センサ、モータ、制御基板、電池、フェイクファ、プラスチック サイズ可変
写真撮影 黒羽 政士

右：(前期) 松田壯統 「Mother & The Sun's theatre」 2017年 写真、スイス硬貨、太陽光

【リリースに関するお問い合わせ】 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
info-annex@po-holdings.co.jp TEL 03-3563-5540 / FAX 03-3563-5543

【読者からのお問い合わせ先】 ポーラ ミュージアム アネックス TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

Ⅱ 監修者プロフィール Ⅱ

木島 俊介：ポーラ美術館館長。1939年鳥取県生まれ。慶応義塾大学文学部卒業、美学・美術史専攻。フィレンツェ大学、ニューヨーク大学大学院、同美術史研究所に学ぶ。群馬県立近代美術館館長および群馬県立館林美術館館長、共立女子大学教授等を務め、現在、同大学名誉教授、東急文化村ザ・ミュージアム プロデューサー。主要著書は、『美しき時祷書の世界』（中央公論社）、『アメリカ現代美術の25人』（集英社）、『女たちが変えたピカソ』（中公文庫）、『名画が愛した女たち 画家とモデルの物語』（集英社）、『クリムトとウィーン』（六耀社）、翻訳書に『ヨーロッパの装飾芸術 全3巻』（中央公論新社）など。

Ⅱ 公益財団法人ポーラ美術振興財団の活動概要 Ⅱ

公益財団法人ポーラ美術振興財団では、美術分野などの若手芸術家及び美術の専門職員に対する助成活動を行っています。主に美術分野における研究活動テーマを広く一般から募集し、有識者で構成される選考委員会によって採択・助成し、日本文化の向上、発展に寄与することを目的に以下の活動を行っています。

【参考資料：令和3年度助成採択内容】

	(採択数)	(助成金額)
(1)若手芸術家の在外研修に対する助成	15件	4,753万円
(2)美術館職員の調査研究に対する助成	12件	1,811万円
(3)美術に関する国際交流の助成	11件	1,795万円

Ⅱ 作家プロフィール Ⅱ

■前期作家

稗田直人

Naoto Hieda

1990年 茨城県生まれ

2012年 東京工業大学 工学部 電気電子工学科 卒業

2015年 マギル大学 工学部 電気コンピュータ学科 修士課程 修了

2017年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員（カナダ）

2019年 ケルン・メディア芸術大学 ディプロムII 入学

2020年 公益財団法人吉野石膏美術振興財団在外研修員（ドイツ）

【主な展覧会】

2021年「KHM Open」ケルン・メディア芸術大学（ケルン/ドイツ）

2020年「NODE20」NODE Forum for Digital Arts（フランクフルト/ドイツ）

2019年「V&A Friday Late」ヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン/イギリス）

2018年「Open Studio」ソウル・アート・スペース・クムチョン（ソウル/韓国）

2017年「MAPP_MTL」Never Apart（モントリオール/カナダ）

2016年「CHI Art」Works/San José（サンノゼ/アメリカ）

2014年「IVRC」日本科学未来館（東京）

<https://naotohieda.com>

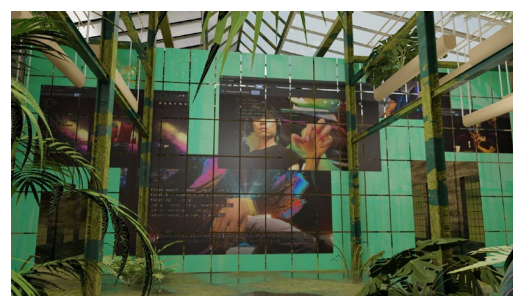
杉山夏実

Natsumi SUGIYAMA

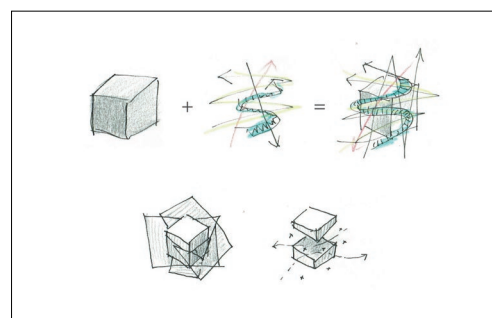
1985年 東京都生まれ

2017年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員（ドイツ）

<https://www.natsumi-sugiyama.com/>



「コレオグラフィック・コーディング・ラボ・オンライン」
2020年
オンライン展示・パフォーマンス 3DCG Gloria Schulz



IMAGINARY BAUHAUS MUSEUM 展示空間構成のための初期概念図
2019年
空間インスタレーション
シラー博物館（ワイマール/ドイツ）

松田壯統

Masanori Matsuda

1982 年 兵庫県西宮市生まれ
1995 年 阪神大震災により自宅が全壊
2007 年 東京芸術大学美術学部 先端芸術表現科 卒業
2009 年 東京芸術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻 修了
2017-2018 年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員 (アイルランド)
2019-2021 年 文化庁新進芸術家海外派遣制度研修員 (ポーランド)

【主な展覧会】

2019 年 「セレブレーション- 日本ポーランド現代美術展」 京都芸術センター(京都)
「CELEBRATION -Poznan artweek」 ラチンスキ図書館 (ポズナン / ポーランド)
「CELEBRATION-MONO NO AWARE」 トラフォ現代美術センター (シシェチン / ポーランド)
「OSTRALE Biennale 2019」 (ドレスデン/ ドイツ)
2018 年 「Collecting time 18」 Espace27-Usine Kugler (ジュネーヴ/ スイス)
「Incomplete Nature」 Interface (コネマラ / アイルランド)
「Incomplete Nature」 Detroit Stockholm (ストックホルム / スウェーデン)
「Tao & Empress Chen」 Points 現代美術センター (錦渓鎮 / 中国)
2017 年 「Ready for Baltane」 2001-artspace (神戸)
2016 年 「House of Day, House of Night」 KCUA (京都)
「Poetry humming」 山本製菓 (西成 / 大阪)
「雪の裏側」 Ishi-artspace (信濃大町 / 長野)

<http://masanorimatsuda.net/>

■後期作家

寺嶋孝佳

TERAJIMA Takayoshi

1986 年 千葉県香取郡小見川町 生まれ (現在 香取市)
2007-11 年 東京藝術大学 美術学部工芸科 卒業
2012-14 年 ミュンヘン美術院 ジュエリー科 Prof. Otto Künzli に師事
2011-15 年 東京藝術大学 美術研究科修士課程工芸専攻 修了
2015-18 年 ミュンヘン美術院 ジュエリー科 Prof. Karen Pontoppidan に師事
2017-18 年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員 (ドイツ)
2018 年 ミュンヘン美術院 ジュエリー科 ディプロマ 修了/マイスターシューラー号 取得

【主な展覧会・受賞】

2021 年 企画展 「Boîte avec couvercle」 Hectare Sabine Herman Galerie(ブリュッセル/ベルギー)
企画展 「VADE RETRO exhibition」 Galeria Tereza Seabra(リスボン/ポルトガル)
作品収蔵 「OMAMORI, TATAMI」 Die Neue Sammlung, Pinakothek der Moderne Munich(ミュンヘン/ドイツ)
2020 年 アートフェア 「PAN AMSTERDAM IN PERSPECTIEF」 Galerie Rob Koudijs(アムステルダム/オランダ)
企画展 「The Palace of Shattered Vessels II: Light Catchers」 FROOTS & NOGART(上海/中国)
アートフェア 「ZONA MACO」 TRECE SIN 3(メキシコシティ/メキシコ)
2019 年 受賞者展 「MONUMENTALITY/FRAGILITY」 National Design & Craft Gallery(キルケニー/アイルランド)
作品収蔵 「OMAMORI」 Schmuckmuseum Pforzheim(フォルツハイム/ドイツ)
アートフェア 「KUNST RAI」 Galerie Rob Koudijs (アムステルダム/オランダ)
2018 年 公募展 「EUROPEAN PRIZE FOR APPLIED ARTS」 新人賞 受賞 World Crafts Council Europe(モンス/ベルギー)
招待作家 「25th International Symposium of Contemporary Jewelry」 Muzeum Českého ráje Turnov(トゥルノフ/チェコ)
個展 「Brettspiel」 AkademieGalerie(ミュンヘン/ドイツ)

<https://takayoshiterajima.myportfolio.com>



「イリヤ - 存在の彼方へ」 2019 年
写真、金箔、パスポート、花、ガラス、鏡、石



「OMAMORI」 2018 年
素材：銅、亜鉛、七宝、身に着けたい“何か”、
h210xw90xd0.3mm

北條知子

Tomoko Hojo

1988年 愛知県生まれ

2015年 東京藝術大学大学院 音楽研究科 音楽文化学専攻 芸術環境創造分野 修了

2016年 ロンドン芸術大学 ロンドン・カレッジ・オブ・コミュニケーション
MA サウンド・アーツ 修了

2017年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研究員 (ロンドン)

【主な展覧会】

2021年 個展「掘り出された震え！Unearthed Tremor」国際芸術センター青森 (青森)

個展「fall asleep」Electromuseum (モスクワ/ロシア)

作曲家個展 Music From Japan Festival 2021、

スカンジナビア・ハウス (ニューヨーク/アメリカ)

2020年 個展「Unfinished Unfinished」soco1010 (東京)

さいたま国際芸術祭に「whiff」を出品、旧大宮図書館 (埼玉)

2019年 個展「声をひそめて」トーキョーアーツアンドスペース (東京)

2018年 個展「Lost and Found」K.A.I.R. (コシツェ/スロバキア)

個展「Unfinished Descriptions」Hundred Years Gallery (ロンドン/イギリス)

<https://tomokohojo.net/>



「想像上の絵画の(考えられる)
残り物 6 頭の中で組み立てる絵 その3」

2019年

木箱、アクリル板、LED ライト、骨伝導スピーカー、音源、
プラスチック袋、高吸収性ポリマー、プラスチック粘土
サイズ可変

写真：加藤健 画像提供：Tokyo Arts and Space

菅野創

KANNO So

1984年 青森県生まれ 千葉県育ち

2007年 武蔵野美術大学情報デザイン学科卒業

2009年 情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科修了

2013年 文化庁新進芸術家海外派遣制度研修員 (ドイツ)

2015年 吉野石膏美術振興財団若手美術家の在外研修に対する助成 (イギリス)

2017年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員 (ドイツ)

【主な展覧会・受賞】

2021年 「Humans / Machines」 Le Pavillon (ナミュール/ベルギー)

2020年 「NEAR+FUTURES+QUASI+WORLDS」,STATE Studio (ベルリン/ドイツ)

2019年 「Nemo Biennale」,104 & Cité Internationale des Arts (パリ/フランス)

「Festival Ars Electronica」,Postcity (リンツ/オーストリア)

第 22 回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞

2018年 「Artistes & Robots」,Grand Palais (パリ/フランス)

第 21 回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞

2017年 「Vanishing Mesh」,YCAM (山口)

2016年 「あいちトリエンナーレ」,愛知県美術館 (名古屋)

2015年 「ICC オープンスペース 2015」,ICC (東京)

2014年 「札幌国際芸術祭」,チ・カ・ホ (札幌)

2012年 「Media City Seoul」,Seoul Museum of Art(ソウル/韓国)

2011年 「ROBOTINITY – THE NEW ROBOLAB」,Ars Electronica Center(リンツ/オーストリア)

第 15 回文化庁メディア芸術祭アート部門新人賞

URL: <https://kanno.so/>



「Lasermice ワークショップ」

2020年

ロボットサイズ W11D12H10(cm)

電子回路、モータ、フェイクファー、PLA、アクリル